

令和 8 年度（2026 年度）

星槎道都大学 通信教育科

精神保健福祉士養成課程（短期）

各科目の学習のポイント

<シラバス>



精神医学と精神医療		担当教員	伊東 隆雄		
精神医学および精神医療の歴史について概観すると共に、精神医学の概念および精神障害の成因と分類について解説する。次に、精神症状と状態像、診断の手順と方法、そして治療法についても最新の事例を紹介しながら解説する。特に、統合失調症、うつ病などの重要な代表的精神疾患について、固有の特徴について詳細に解説する。					
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。 ②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。 ③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。 ④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。 	授業 全体 の 内容 と 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ①精神疾患総論 ②精神疾患の治療 ③精神医療の動向 ④精神科医療機関における治療 ⑤精神医療と保健、福祉の連携の重要性 		
具体的 授業 内容	<ul style="list-style-type: none"> ①精神医学(医療の歴史、欧米における精神医療の歴史、日本における精神医療の歴史) ②精神現象の生物学的基礎(脳の構造と機能、こころの生物学的理解、精神分析から見たこころ) ③精神障害の概念(健康、精神症状、精神疾患、精神疾患に由来する障害) ④精神疾患の診断分類(内因性・外因性・心因性、国際疾病分類(ICD)、精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM)) ⑤診断、検査(診断手順と方法、心理検査、理化学的検査) ⑥代表的な疾患とその症状、経過、予後(認知症、てんかん、依存症、統合失調症、気分(感情)障害、不安障害、神経症性障害、ストレス関連障害、摂食障害、発達障害) ⑦薬物治療(薬理作用と副作用) ⑧精神療法(精神療法の種類と内容、集団精神療法、認知行動療法、SST) ⑨脳刺激法(電気けいれん療法、経頭蓋磁気刺激療法) ⑩作業療法 ⑪地域精神医療(訪問診療・往診、訪問看護、アウトリーチ、デイケア) ⑫精神疾患患者の動向(精神保健福祉資料、患者調査、入院患者の推移(疾病別・年齢階級別)、外来患者の推移(疾病別・年齢階級別)、在院期間・退院先、精神科病院数の推移、病棟の機能分化の推移) ⑬医療制度改革と精神医療(医療法(医療施設の類型、医療計画)、保健医療政策、診療報酬制度) ⑭医療機関の医療機能の明確化(病床機能分化、クリティカルパス、地域医療連携(地域完結型医療)) ⑮入院治療(専門病棟) ⑯入院治療と人権擁護(入院治療の歴史、精神保健福祉法における入院形態(任意入院、医療保護入院、措置入院、応急入院、緊急措置入院)、医療保護入院における退院促進、インフォームド・コンセント、精神科病院における処遇(隔離・身体的拘束)、行動制限の最小化、退院および処遇改善請求、精神保健指定医制度、精神医療審査会、移送制度) ⑰外来治療、在宅医療(外来、訪問診療・往診、訪問看護) ⑱医療観察法における入院・通院治療(指定入院医療機関、医療観察病棟、指定通院医療機関、鑑定入院) ⑲精神科医療機関における精神保健福祉士の役割(相談援助、人権擁護、入院・退院時の関わり、退院支援・退院後生活環境相談員、多職種カンファレンス、家族への助言・指導、制度の説明・提案・相談) ⑳精神保健福祉士と協働する職種(医師、薬剤師、看護師、作業療法士、管理栄養士、公認心理師) ㉑治療導入に向けた支援(早期介入、保健所・市町村保健センター・精神保健福祉センターと役割、学校保健の役割、産業保健の役割、精神科救急医療システム、認知症初期集中支援チーム、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム) ㉒再発予防や地域生活に向けた支援(服薬自己管理の支援、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム、地域生活を支える多機関の役割、障害福祉サービス) 				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021年	9784805882528

レポート課題	レポート課題①	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書の第2章「代表的な精神疾患」の第3節「統合失調症」を参照し、統合失調症という疾患はどのような疾患なのか、1,000文字～1,200文字でまとめなさい。		
		レポート作成上の注意点	特になし	
		レポート作成のための参考文献	特になし	
	レポート課題②	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書の第3章「精神疾患の治療」の第5節「精神科リハビリテーション」を参照し、精神科リハビリテーションとはどのようなものであるのか、その効果も含め、1,000文字～1,200文字でまとめなさい。		
		レポート作成上の注意点	特になし	
		レポート作成のための参考文献	特になし	
評価方法	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価			
	レポート課題	スクーリング	試験	
	2本	6時間	有	

現代の精神保健の課題と支援		担当教員	近藤 亜弥・上原 正希
精神保健の概要および現代の精神保健分野の動向と課題を踏まえ、家族、学校教育、勤労、現代社会の課題などさまざまな場面で起こりうる精神保健問題について、予防および対策を理解し、多職種、他機関等と連携するうえで精神保健福祉士に求められる知識を習得する。			
授業の目的・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 ②精神保健の基本的考え方を理解する。 ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 	授業全体の内容と概要	<ul style="list-style-type: none"> ①現代の精神保健分野の動向と基本的考え方 ②家族に関連する精神保健の課題と支援 ③精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ ④精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ ⑤精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ ⑥精神保健に関する発生予防と対策 ⑦地域精神保健に関する偏見・差別等の課題 ⑧精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 ⑨諸外国の精神保健活動の現状及び対策
具体的授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ①精神保健の動向(衛生行政報告例、地域保健・健康増進事業報告、受療率に見る課題(受療格差と受療バリア、受療までの期間(DUI)と受療促進)) ②精神保健活動の三つの対象(支持的精神保健、積極的精神保健、総合的精神保健) ③精神の健康に関する心的態度(否認、受容、回復) ④生活と嗜癖(自己治療説、依存症) ⑤家族関係における暴力と精神保健(DV) ⑥出産・育児をめぐる精神保健(育児困難、子育て不安、児童虐待、発達障害と療育をめぐる精神保健) ⑦介護をめぐる精神保健(ケアラー、不適切ケア、高齢者虐待) ⑧社会的ひきこもりをめぐる精神保健 ⑨家族関係の課題(支配・被支配、依存・共依存関係、家族問題を相談する機関) ⑩グリーフケア(死別経験と喪失経験、複雑性悲嘆) ⑪精神保健支援を担う機関 ⑫学校教育における精神保健的課題(いじめ、学校における暴力、自殺・不登校、学級崩壊、非行問題) ⑬教員の精神保健(燃え尽き症候群) ⑭関与する専門職と関係法規(学校保健安全法、いじめ防止対策推進法) ⑮スクールソーシャルワーカーの役割 ⑯学校精神保健にかかわる社会資源 ⑰現代日本の労働環境(過労働と過労自殺) ⑱産業精神保健とその対策(ストレスチェックと職場環境改善、職場復帰支援) ⑲職場のメンタルヘルスのための相談(ハラスメント相談、従業員援助プログラム(EAP)、企業内保健相談活動) ⑳職場内の問題を解決するための機関及び関係法規(労働基準法、労働安全衛生法) ㉑災害被災者の精神保健(こころのケアチーム、支援者のケア、DPAT) ㉒犯罪被害者の支援 ㉓自殺予防(ゲートキーパー、自傷行為、自殺未遂、自死遺族) ㉔身体疾患に伴う精神保健 ㉕貧困問題と精神保健(貧困とストレス、新たな貧困問題(子どもや女性)に伴う精神保健) ㉖社会的孤立(ホームレスと精神保健、セルフネグレクト) ㉗LGBT と精神保健 ㉘他文化に接することで生じる精神保健上の問題(異文化ストレス、文化差に配慮した支援) ㉙反復違法行為と精神保健(違法薬物使用・盗癖・性加害・放火・ストーカー行為の反復、司法領域との連携) ㉚精神保健の予防の考え方 ㉛アルコール問題に対する対策(社会問題としての依存症対策、個人及び家族への依存症対策(家族相談・減酒支援・受療支援)、SBIRTS) ㉜薬物依存対策(薬物乱用防止教育、ハームリダクション) ㉝ギャンブル等依存対策(多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の関連問題に関する施策との連携) 		

	<p>③④うつ病と自殺防止対策(ゲートキーパー)</p> <p>③⑤子育て支援と暴力、虐待予防(親教育、子育て中の親支援グループ、思春期の親グループ)</p> <p>③⑥認知症高齢者に対する対策(介護家族支援)</p> <p>③⑦社会的ひきこもりに対する対策(世代別関連問題)</p> <p>③⑧災害時の精神保健に対する対策</p> <p>③⑨関係法規(地域保健法、母子保健法)</p> <p>④⑩精神保健に関わる人材育成</p> <p>④⑪精神保健における偏見(古典的偏見、制御可能型偏見)</p> <p>④⑫国の機関とその役割</p> <p>④⑬精神保健に係る法規</p> <p>④⑭保健師等の役割と連携</p> <p>④⑮地域精神保健に係わる行政機関の役割及び連携(精神保健福祉センター、保健所、市町村(保健センター))</p> <p>④⑯学会や啓発団体(いのちの電話、日本精神衛生会)</p> <p>④⑰セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体(家族会、当事者の会、市民団体)</p> <p>④⑱世界の精神保健の実情(障害調整生命年(DALY))</p> <p>④⑲WHOなどの国際機関の活動(基本10原則、アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略決議)</p> <p>⑤⑰諸外国の精神保健医療の実情</p>				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2026年	9784824303509
レポート課題	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。				
	テキストp4の「ライフサイクルと発達課題」について簡潔にまとめ、特に青年期・(初期)成人期の精神保健の課題について、その発生要因、予防・対応策を説明しなさい。				
	レポート課題①	レポート作成上の注意点	特になし		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題②	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。			
		わが国の高齢化の進展に伴って起こる精神保健の課題について、その発生要因、予防・対応策を説明しなさい。			
	レポート作成上の注意点	特になし			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	2本	6時間	有		

精神保健福祉の原理		担当教員	西野 克俊
<p>障害者福祉の理念や歴史的展開から、精神障害の概念を学び、精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方を理解する。また、人権や社会正義に照らして教訓とすべき考え方を習得し、精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態の理解を深め、精神保健福祉士の存在意義を理解し、実践上の着眼点や場面・状況に応じた行動特性を学ぶ。</p>			
授業の目的・ねらい	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p> <p>⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。</p> <p>⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。</p> <p>⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>	授業全体の内容と概要	<p>①障害者福祉の理念</p> <p>②「障害」と「障害者」の概念</p> <p>③社会的排除と社会的障壁</p> <p>④精神障害者の生活実態</p> <p>⑤「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念</p> <p>⑥「精神保健福祉士」の機能と役割</p>
	<p>①障害者福祉の思想と原理(優生思想と社会防衛思想、基本的人権の保障、社会正義の実現、法の下での平等)</p> <p>②障害者福祉の理念(リハビリテーション、ノーマライゼーション、エンパワメント、自立生活、機会均等、インクルージョン)</p> <p>③障害者福祉の歴史的展開(基本的人権の保障(自由権と社会権)、自立支援・社会参加支援、消費者としての権利保障)</p> <p>④国際生活機能分類(ICF)(ICIDH、ICF)</p> <p>⑤制度における「精神障害者」の定義(障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法)</p> <p>⑥精神障害の障害特性(蜂矢モデル、ICFモデル、上田敏モデル)</p> <p>⑦諸外国の動向(ビアーズ、魔女裁判/ピネル、精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則(1991))</p> <p>⑧日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事(相馬事件(精神病者監護法、精神病院法、呉秀三)、ライシャワー事件(精神衛生法の改正)、宇都宮病院事件(精神保健法、指定医)、大和川病院事件(精神保健福祉法における入院制度、地域移行)、池田小学校事件(医療観察法)、相模原事件(措置入院の運用等の整理)等)</p> <p>⑨日本の社会的障壁(欠格条項、強制不妊手術、保健体育の教科書等、古典的偏見と制御可能型偏見、コンフリクトの種類(本質的コンフリクトと感情的コンフリクト)とレベル(マイクロ・メゾ・マクロ)、人権侵害としての施設コンフリクト、アルコール・薬物問題の取締法と刑罰の優先、自己責任論と受療への障壁)</p> <p>⑩精神科医療の特異性(強制入院・治療、精神科特例、病床数と在院日数、隔離・身体的拘束、多剤併用等)</p> <p>⑪家族(保護義務者の歴史、家族とその生活実態、家族の多様性)</p> <p>⑫社会生活(居住形態・家族の同居率、生活保障(生活保護・年金・手帳)、就労状況)</p> <p>⑬「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯(精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題、倫理綱領の規定の経緯、資格化まで経緯)</p> <p>⑭原理・価値(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体、社会正義、ごく当たり前の生活)</p> <p>⑮観点・視点(人と環境の相互作用、生活者、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ、ハームリダクション)</p> <p>⑯関係性(加害者性、援助関係、間主観(相互主体性)、協働関係)</p> <p>⑰精神保健福祉士法(精神保健福祉士法制定と改訂の経緯、法の目的、定義、義務規定、誠実義務、信用失墜行為の禁止、秘密保持、連携等、資質向上の責務、社会福祉士法及び介護福祉士法と精神保健福祉士法との関係)</p>		
具体的授業内容			

具体的授業内容	⑱精神保健福祉士の職業倫理(倫理綱領、倫理的ジレンマ、専門職団体の意義と役割)				
	⑲精神保健福祉士の業務特性(価値・理念・視点・知識・技術による業務構成、マイクロ・メゾ・マクロの連続性(包括的アプローチ)、連携(多職種連携・多機関連携)における精神保健福祉士の役割)				
テキスト	書籍名		著者	出版社	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理		日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021年
レポート課題	レポート課題①	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。			
		精神保健福祉士の価値や理念、原理などについて教科書から端的にまとめ、自身が考える精神保健福祉士の専門職特性についてまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
	レポート課題②	レポート作成のための参考文献	特になし		
		次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。			
		精神保健福祉士の役割や機能などについて教科書から端的にまとめ、自身が考える精神保健福祉士の必要性についてまとめなさい。			
レポート課題②	レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
評価方法	レポート課題	スクーリング	試験		
	2本	6時間	有		

ソーシャルワークの理論と方法		担当教員	畠山 明子
<p>ソーシャルワーク実践のうち、①人と環境との相互作用に関する理論、②マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、③ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ケアマネジメント、⑥グループワーク、⑦セルフヘルプグループ、⑧コミュニティワーク、⑨スーパービジョン、⑩コンサルテーションの知識と技術を習得する。</p>			
授業の目的・ねらい	<p>①人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。</p> <p>②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。</p> <p>④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。</p> <p>⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。</p>	授業全体の内容と概要	<p>①人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</p> <p>②ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ</p> <p>③ソーシャルワークの過程</p> <p>④ソーシャルワークの記録</p> <p>⑤ケアマネジメント</p> <p>⑥集団を活用した支援</p> <p>⑦コミュニティワーク</p> <p>⑧スーパービジョンとコンサルテーション</p>
具体的授業内容	<p>①システム理論(一般システム理論、サイバネティクス、自己組織性)</p> <p>②生態学理論</p> <p>③バイオ・サイコ・ソーシャルモデル</p> <p>④マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</p> <p>⑤ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ(医学モデル、生活モデル、ストレングスモデル、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ)</p> <p>⑥ケースの発見(アウトリーチ、スクリーニング)</p> <p>⑦インテーク(インテークの意義、目的、方法、留意点、契約)</p> <p>⑧アセスメント(アセスメントの意義、目的、方法、留意点)</p> <p>⑨プランニング(プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意)</p> <p>⑩支援の実施(支援の意義、目的、方法、留意点)</p> <p>⑪モニタリング(モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定)</p> <p>⑫支援の終結と事後評価(支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点)</p> <p>⑬アフターケア(アフターケアの目的、方法、留意点)</p> <p>⑭記録の意義と目的(ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウントビリティ)</p> <p>⑮記録の方法と実際(記録の文体(叙述体、要約体、説明体等)、項目式(フェースシート等)、図表式(ジェノグラム、エコマップ等))</p> <p>⑯ケアマネジメントの原則(ケアマネジメントの歴史、適用と対象)</p> <p>⑰ケアマネジメントの意義と方法(ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル)</p> <p>⑱グループワークの意義と目的(グループダイナミクス)</p> <p>⑲グループワークの原則(個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則)</p> <p>⑳グループワークの展開過程(準備期、開始期、作業期、終結期)</p> <p>㉑セルフヘルプグループ(共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割)</p> <p>㉒コミュニティワークの意義と目的(ソーシャルインクルージョン、住民参加)</p> <p>㉓コミュニティワークの展開(地域アセスメント、地域課題の発見・認識、実施計画とモニタリング、組織化、社会資源の開発、評価と実施計画の更新)</p> <p>㉔スーパービジョンの意義、目的、方法(スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法)</p> <p>㉕コンサルテーションの意義、目的、方法(コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法)</p>		

テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021年	9784805882429
レポート課題	レポート課題	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 ソーシャルワークの展開過程における「アセスメント面接」の特徴と留意点について説明しなさい。			
	レポート作成上の注意点	特になし			
	レポート作成のための参考文献	・相澤譲治【監修】(2021)『新版 ソーシャルワークの理論と方法 I [基礎編]』みらい			
	レポート課題①	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 グループワークの展開過程とその具体的な内容について、ソーシャルワーカーの役割に触れながら説明しなさい。			
	レポート作成上の注意点	特になし			
	レポート作成のための参考文献	・相澤譲治【監修】(2021)『新版 ソーシャルワークの理論と方法 I [基礎編]』みらい			
評価方法	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	2本	6時間	有		

ソーシャルワークの理論と方法(専門)		担当教員	西野 克俊
精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要や展開過程を理解し、精神保健福祉士として多職種連携の展開過程やソーシャルアクションの展開過程等多岐にわたる課程の理論を体得する。			
授業の目的・ねらい	①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。	授業全体の内容と概要	①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ②精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程 ③精神保健福祉分野における家族支援の実際 ④多職種連携・多機関連携(チームアプローチ) ⑤ソーシャルアドミニストレーションの展開方法 ⑥コミュニティワーク ⑦個別支援からソーシャルアクションへの展開 ⑧関連分野における精神保健福祉士の実践展開
	①ソーシャルワークの構成要素(原理、理念、視点、知識、技術) ②ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開) ③精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点(人と環境の相互作用、精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況、精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点) ④アウトリーチ(必要な支援にアクセスできない当事者及び家族へのアプローチ、支援を求めない当事者層へのアプローチ、多問題を含む家族へのアプローチ、社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ) ⑤インテーク(主訴の把握、スクリーニング、契約) ⑥アセスメント(情報から情報分析・解釈へ、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性、本人に関する理解(発達・医療健康面・障害特性、心理・情緒面、ストレスコーピング、好みや価値観等)、環境に関する理解(社会関係、経済状況、住環境、関連する法制度や支援内容等)、アセスメントツール(エコマップ等)) ⑦援助関係の形成技法(バイステックの援助関係を形成する技法、自己決定・意思決定、協働(パートナーシップ)、心理的防衛機制、転移と逆転移、バウンダリー、自己覚知) ⑧面接技術とその応用(面接の構造、面接技法(マイクロカウンセリング)、生活場面面接、動機づけ面接) ⑨支援の展開(人、環境へのアプローチ)事例分析(エコロジカルアプローチ(生活モデル)の展開、エンパメントアプローチの展開) ⑩支援の展開(ケアマネジメント)(ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントの実際(ACT、ストレングスマodelに基づくケアマネジメント、障害者総合支援法におけるケアマネジメント等)) ⑪精神障害者家族の課題(精神保健福祉法と家族、介護家族という社会的役割、精神障害に関連したケアラーのニーズ、ケアラー・ヤングケアラー支援) ⑫家族理解の変遷(家族病因論、家族ストレス対処理論、家族システム論、家族の感情表出(EE)研究、ジャクソン7段階説(依存症の家族)) ⑬家族支援の方法(家族相談面接、家族療法的アプローチ、家族関係における暴力への介入(DV 被害者支援、DV 加害者プログラム)、家族のリハビリ、家族のセルフヘルプグループ) ⑭連携の意義と目的(連携に関わる概念整理(連携、協働、チームアプローチ、ネットワーク)、ニーズの多様化・複合化、医療の機能分化、障害福祉サービスの事業化、包括的地域生活支援) ⑮多職種連携・多機関連携の留意点(当事者中心・当事者参加の原則、目標の共有、情報共有とプライバシー保護、他職種・他機関の専門性の理解と尊重、役割と責任の明確化) ⑯チームビルディング(リーダーシップ、メンバーシップ、ファシリテーション、パワーゲーム) ⑰チームの形態と特徴(マルチディシプリナリーチーム、インターディシプリナリーチーム、トランスディシプリナリーチーム) ⑱連携における精神保健福祉士の役割 ⑲多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)の実際(事例)		
具体的授業内容			

	<p>⑳ソーシャルアドミンストレーションの概念とその意義</p> <p>㉑組織と精神保健福祉士の関係性(組織経営(医療経営・事業経営)とソーシャルワーク、専門職と被用者(二重のロイヤリティ))</p> <p>㉒組織介入・組織改善の実践モデル(生活モデルにおける組織介入技法、準備段階(問題の特定)、組織分析(アセスメント)、導入の技法、関与の技法(説明法、協働法、説得法、対立活用法)、実施と制度化)</p> <p>㉓組織運営管理の実際(事業計画の策定と実施マネジメント、サービス評価(PDCA サイクル)、環境整備、資源調達、人材確保と人材育成)</p> <p>㉔精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義(地域生活支援、ソーシャルインクルージョン、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム)</p> <p>㉕地域における精神保健福祉の向上(精神保健福祉に関する普及啓発、地域住民の精神保健福祉活動への参画、予防的アプローチ)</p> <p>㉖基本的視点(当事者ニーズを軸とした展開・包括的アプローチ、マイクロ・メゾ・マクロの連続性と展開方法)</p> <p>㉗個別支援から地域における体制整備(個別支援会議、地域における協議会(自立支援協議会等)、地域課題の発見・共有(個別支援の蓄積、ニーズ調査、地域アセスメント)、地域におけるネットワークの構築、地域における社会資源の開発・改善(計画策定及びその実施、評価過程を含む)、地域住民への啓発と住民参加)</p> <p>㉘政策提言・政策展開(国及び広域圏において共通する課題の抽出・分析(メソレベルにおける取り組みの限界)、職能団体・関係団体間での課題の共有とエビデンスの集積、法制度上の課題の解決に向けたアクションプランと実施、改善・創設された法制度の活用と評価)</p> <p>㉙精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開(事例分析)</p> <p>㉚学校・教育分野(スクールソーシャルワーク)</p> <p>㉛産業分野(EAP)</p> <p>㉜司法分野</p> <p>㉝その他</p>				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法[精神専門] 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2026年	9784824303516
レポート課題	レポート課題①	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。			
		教科書を参照し、多職種連携の重要性をまとめ、ソーシャルワーカーの役割について自身の考えをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
	レポート作成のための参考文献	特になし			
	レポート課題②	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。			
		教科書を参照し、地域における精神保健福祉の向上の重要性をまとめ、ソーシャルワーカーの役割について自身の考えをまとめなさい。			
レポート作成上の注意点		課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。			
レポート作成のための参考文献	特になし				
評価方法	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	2本	6時間	有		

精神障害リハビリテーション論		担当教員	近藤 亜弥・上原 正希		
<p>本科目は、精神疾患と障害の併存という特質のある精神障害者に対するリハビリテーションについて、その歴史、理念や定義、種類や内容等を学び、チームアプローチのなかで生活を支える視点に立つ精神保健福祉士に求められる知識を習得することを目的とする。</p>					
授業の目的 ねらい	<p>①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。</p> <p>②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。</p> <p>③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。</p>	授業 全体 の 内容 と 概 要	①精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則	②精神障害リハビリテーションの構成及び展開	③精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関
具体的 授業 内容	<p>①精神障害リハビリテーションの理念と定義(リハビリテーションの理念、権利の回復、生活環境への適応、技能の育成、自尊心の回復、環境面への介入)</p> <p>②医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション(医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、教育的リハビリテーション)</p> <p>③精神障害リハビリテーションの基本原則(基本原則)</p> <p>④精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係(障害とニーズ、個人への介入、環境への介入)</p> <p>⑤地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義(リカバリー概念、ストレングスモデル、地域を基盤とした精神障害リハビリテーションの意義)</p> <p>⑥精神障害リハビリテーションの対象</p> <p>⑦チームアプローチ(多職種連携)</p> <p>⑧精神障害リハビリテーションのプロセス(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価)</p> <p>⑨精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割</p> <p>⑩医学的リハビリテーションプログラム(認知行動療法、行動療法、作業療法、健康自己管理のプログラム、依存症回復プログラム、デイ・ケアプログラム、実施機関(精神科病院、精神保健福祉センター等))</p> <p>⑪職業的リハビリテーションプログラム(就労準備プログラム、援助付雇用プログラム、IPS モデル、復職支援プログラム、就労定着プログラム、実施機関(就労移行支援事業所、就労継続支援事業所等))</p> <p>⑫社会的リハビリテーションプログラム(社会生活技能訓練、心理教育プログラム、WRAP、生活訓練プログラム、地域移行プログラム、実施機関(生活訓練事業所、地域活動支援センター、共同生活援助、保護観察所等))</p> <p>⑬教育的リハビリテーションプログラム(特別支援教育プログラム、障害学生支援プログラム、実施機関(特別支援学校、放課後等デイサービス、児童発達支援等))</p> <p>⑭家族支援プログラム(家族心理教育、家族による家族支援プログラム、実施機関(セルフヘルプグループ等))</p> <p>⑮精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション(ピアサポートグループとピア活動、ピアスタッフ、家族による家族支援、当事者プログラム)</p> <p>⑯依存症のリハビリテーション</p>				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021年	9784805882542
レポート 課題	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。				
	精神障害リハビリテーションプログラム(医学的、職業的、社会的、教育的)の中から一つを選んでその概要を簡潔にまとめ、精神障害リハビリテーションに関わる精神保健福祉士の役割について説明しなさい。				
	レポート作成上の注意点	特になし			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価 方法	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	1本	3時間	有		

精神保健福祉制度論		担当教員	大島 康雄		
精神保健福祉士は対人援助技術を使って、クライアントと信頼関係を構築します。援助関係からニーズを抽出して、本人のストレングスやエンパワメントを活用して、ニーズを充足するための社会資源を調整していく専門職になります。その社会資源を学ぶのがこの科目となります。障害者総合支援法や介護保険法、生活保護など生活課題毎に整理しながら学習ができるように展開していきます。					
授業の目的・ねらい	①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 ②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。	授業全体の内容と概要	①精神障害者に関する制度・施策の理解 ②精神障害者の医療に関する制度 ③精神障害者の生活支援に関する制度 ④精神障害者の経済的支援に関する制度		
	①精神障害者に関する法律の体系 ②精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割(入院形態、入院の方法(移送制度等)、人権擁護(退院請求、精神医療審査会、指定医制度)、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割(退院後生活環境相談員等)) ③医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割(審判・処遇の流れ、処遇の内容、精神保健参与員の役割、社会復帰調整官の役割、医療観察法における精神保健福祉士の役割) ④精神障害者の医療に関する課題(非自発的入院、意思決定支援、家族等の同意、アウトリーチ、精神科救急、地域移行、地域定着、医療観察法の課題) ⑤相談支援制度と精神保健福祉士の役割(相談支援制度の概要、相談支援制度における精神保健福祉士の役割) ⑥居住支援制度と精神保健福祉士の役割(居住支援制度の概要、居住支援における精神保健福祉士の役割) ⑦就労支援制度と精神保健福祉士の役割(就労支援制度の概要、就労支援における精神保健福祉士の役割) ⑧精神障害者の生活支援制度に関する課題(相談支援制度における課題、居住支援における課題、就労支援における課題) ⑨生活保護制度と精神保健福祉士の役割(生活保護の概要、生活保護制度における精神保健福祉士の役割) ⑩生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割(生活困窮者自立支援制度の概要、生活困窮者自立支援制度における精神保健福祉士の役割) ⑪低所得者対策と精神保健福祉士の役割(生活福祉資金貸付制度、無料定額診療所、無料定額宿泊所、求職者支援制度、法律扶助、災害救助等、低所得者対策における精神保健福祉士の役割) ⑫精神障害者の経済的支援制度に関する課題(精神障害者の生活実態から見える経済的支援の課題、無年金問題、生活保護被保護者の地域移行の課題)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025年	9784824301581
レポート課題	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 医療観察法、障害者差別解消法、生活支援に関することを整理し、相談支援の役割を述べなさい。				
	レポート作成上の注意点	特になし			
	レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	1本	3時間	有		

ソーシャルワーク演習(専門)	担当教員	上原 正希・大島 康雄・西野 克俊 畠山 明子・牧野 祐介
精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの展開過程を理解し、精神保健福祉士としての役割認識や職業アイデンティティの構築を図る。また、ソーシャルワーク展開過程をイメージしながら、専門性(知識、技術、価値)の基礎を体得する。		
授業の目的・ねらい	<p>① 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>② 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>③ 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p> <p>④ 精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。</p> <p>⑤ 精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>	<p>①精神保健福祉士に必要な知識について、体系的に理解できる。</p> <p>②精神保健福祉士に必要な技術について、体系的に理解できる。</p> <p>③精神保健福祉士として求められる、職業アイデンティティの構築意義を実践的に理解できる。</p>
具体的授業内容	<p>以下の内容についてはソーシャルワーク実習(専門)を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくこと。</p> <p>以下の①から④に掲げる事項を組み合わせた精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察することができるように指導すること。</p> <p>① 領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関(入院病棟、外来、訪問、デイ・ケア、精神科以外の診療科を含む病院、診療所) ・ 障害福祉サービス事業所(相談支援、就労支援、生活訓練、地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等) ・ 行政機関・社会福祉協議会(精神保健福祉センター、保健所、市町村、ハローワーク等) ・ 高齢者福祉施設(地域包括支援センター、介護療養型施設、生活施設等) ・ 教育機関(学校、教育委員会) ・ 司法(刑務所、矯正施設、保護観察所等) ・ 産業・労働(一般企業、EAP 機関等) ・ 児童(児童相談所、児童養護施設等) ・ 合議体(退院支援委員会、精神医療審査会、障害支援区分認定審査会、自立支援協議会、契約締結審査会、医療観察法審判期日等) ・ その他(独立開業等) <p>② 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的排除、社会的孤立 ・ 受診・受療、課題発見 ・ 退院支援、地域移行支援 ・ 地域生活支援 ・ 自殺対策 ・ ひきこもり支援 ・ 児童虐待への対応 ・ アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存等の予防や回復 ・ 家族支援 ・ 就労(雇用)支援 ・ 職場ストレス、リワーク支援 ・ 貧困、低所得、ホームレス支援 	

具体的授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害被災者、犯罪被害者支援、触法精神障害者支援 ・ その他 ③法制度・サービス <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ・ 障害者基本法、障害者総合支援法 ・ 障害者差別解消法、障害者虐待防止法 ・ 医療観察法 ・ 生活保護制度、障害年金制度、各種手当 ・ 障害者雇用促進法、労働安全衛生法 ・ 介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法 ・ 児童福祉法、児童虐待防止法 ・ アルコール健康障害対策基本法 ・ 刑の一部執行猶予制度、覚せい剤取締法等 ・ 自殺防止対策基本法 ・ 当事者活動(自助グループ、ピアサポート) ・ その他(居住支援制度、生活困窮者自立支援制度、成年後見制度等) ④ 援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワークの過程を通じた援助(ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア) ・ 個別面接 ・ グループワークの展開 ・ ケア会議や関係者会議のコーディネートとマネジメント ・ リハビリテーションプログラムの実施(行動療法、作業療法、回復支援プログラム) ・ アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの展開 ・ 社会福祉調査の実施、計画策定、評価、資源創出、政策提言 ・ 普及啓発活動、人材育成(住民への啓発、ボランティア養成、実習生指導) ・ 記録(個別支援記録、公文書作成、業務(日誌・月報等)の記録、スーパービジョンのためのレポート作成等) ・ その他 				
	テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年
	最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習[精神専門]	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟【編】	中央法規	2021年	9784805882580
レポート課題	レポート課題①	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書の事例4を参照し、アルコール依存症者へのかかわりについて、精神保健福祉士の視点から感じたことをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題②	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書の事例20を参照し、障害者虐待防止にかかる対応について、精神保健福祉士の視点から感じたことをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題③	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書の事例22を参照し、多職種・多機関連携におけるソーシャルワーカーのかかわりについて、精神保健福祉士の視点から感じたことをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
評価方法	レポート及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング	試験		
	3本	9時間	無		

ソーシャルワーク実習指導		担当教員	大島 康雄・西野 克俊・畠山 明子		
ソーシャルワーク実習の必要性やその意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握を体得することにより、ソーシャルワーク実習に必要な能力を涵養する。					
授業の目的・ねらい	①ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。		授業全体の内容と概要	個別指導及び集団指導により、精神障害者のおかれている現状と精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を学ぶ。精神保健福祉援助にかかわる知識と技術について具体的かつ実際に学びつつ、自己に求められる課題について考える。精神保健福祉援助実習の意義を考え、事前準備を行う。	
	次に掲げる事項について個別指導及び集団指導 ① ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ② 精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。)に関する基本的な理解 ③ 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ④ 精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験 ⑤ 現場体験学習及び見学実習 ⑥ 実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解 ⑦ 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ⑧ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(精神保健福祉士法及び個人情報保護法の理解を含む。) ⑨ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 ⑩ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 ⑪ 巡回指導(訪問指導、スーパービジョン) ⑫ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 ⑬ 実習の評価全体総括会				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021年	9784805882597
レポート課題	レポート課題①	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書を参照し、ソーシャルワーク実習における体験学習の意義について端的にまとめ、ソーシャルワーク実習における学習効果についての自身の考えをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題②	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書を参照し、ソーシャルワーク実習における記録の意義について端的にまとめ、記録の重要性についての自身の考えをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
	レポート課題③	次の課題について1,000字～1,200字の範囲で述べなさい。 教科書を参照し、ソーシャルワーク実習における自己覚知の意義について端的にまとめ、自己覚知の必要性についての自身の考えをまとめなさい。			
		レポート作成上の注意点	課題に従い、教科書の内容をまとめるだけでなく、自身の考えも記載すること。		
		レポート作成のための参考文献	特になし		
評価方法	レポート及びスクーリング授業への取り組み姿勢をもとに総合的に評価				
	レポート課題	スクーリング		試験	
	3本	9時間		無	

ソーシャルワーク実習		担当教員	大島 康雄・西野 克俊・畠山 明子		
ソーシャルワーカーとして求められる知識及び技術を実践として体験し、精神保健福祉士としての価値、理念、資質等を習得する。					
授業の目的・ねらい	<p>① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。</p> <p>② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。</p> <p>③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>		授業全体の内容と概要	<p>実習の目的は、精神科ソーシャルワーカーとして体得しておくべき態度と実践能力を高めることにある。これらを身につけるためには、教科で学んだ専門知識を実際に生かし、また、事前学習で学んだ援助技術を実践場面でも活用できるようにする。</p>	
	具体的授業内容	<p>① 学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ・ 退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ・ 入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 ・ 病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク <p>② 学生は、精神科診療所での実習において患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受診前や治療中の患者及びその家族への相談援助 ・ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ・ 外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 ・ 地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク <p>③ 学生は、障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ・ 利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成 ・ 利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)との相談支援関係の形成 ・ 利用者やその関係者(家族・友人・近隣住民等)への権利擁護及び相談支援(エンパワメントを含む。)とその評価 ・ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加 ・ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 ・ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚 ・ 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察 ・ 当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発場面の観察 ・ 実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察 ・ 実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案 <p>④ 学生は、実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。</p> <p>⑤ 実習指導担当教員は、巡回指導等を通して実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>			
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2021年	9784805882597

評価方法	実習内容の達成度について、実習指導者の評価および自己評価を考慮して総合的に評価		
	レポート課題	スクーリング	試験
	-	-	-

※出願時に同意した以下の内容についても再度確認すること

【実習日数、期間・時期について】
<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な時間数、内容等は法令により定められています。決められた実習時期、期間に実習を行う必要があります。また、実習の内容は定められた内容を満たす必要があります。 ・実習は原則として平日に連続して行います。土日祝日のみ、土日祝日を中心とした日程、長期にわたる分散日程での実習はできません。 ・日程は本人の希望と実習施設の受け入れ事情により調整しますが、社会情勢や施設の事情等で、希望の日程での実習が難しい場合があります。
【実習先について】
<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設および実習指導者の要件は、法令等で詳細に定められています。要件を満たし、本学と契約を交わした施設以外では実習はできません。身近な地域に施設があっても実習先にならないことがあることをご理解ください。 ・実習先は遠方になる可能性があります。また、遠方になり宿泊費等がかかる場合には、ご自身で負担していただきます。 ・実習先選定にあたっては、受講生の特性や状況を勘案し、社会情勢等を踏まえた上で決定します。
【実習の履修要件・単位認定等について】
<ul style="list-style-type: none"> ・実習に行くためには、スクーリング、レポート学習および試験等の学習が順調である必要があります。正当な理由なく学習が滞っている場合には、実習に行くことができません。 ・実習指導のスクーリングに出席していることが必要です。 ・その他、本学において必要と判断した場合には、延期、中止、中断となることがあります。 ・治療中の病気があり主治医の許可が得られない場合や、妊娠中は実習に行くことはできません。 ・状況により、自身と実習指導者または指導担当教員と協議が必要となった際は、実習指導者または指導担当教員の意向等を尊重し、協議を行います。 ・実習中(事前・事後指導を含む)は、実習指導者および指導担当教員の指示に従い、行動していただきます。 ・上記内容に相反した場合、実習の単位認定が認められない場合があります。
【勤務先・ご家庭との調整について】
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務先に実習中の休暇取得等についてご理解を得ていますか。入学後に休暇取得等が困難となっても、本学では配慮致しかねます。 ・長期間の実習参加についてご家庭のご理解を得ていますか。また、ご家庭のサポートは得られますか。(特に小さいお子様のいる方)